

新宮山彦ぐるーぷ第2331回

釈迦ヶ岳・太尾登山道の笹刈と鳥羽局長他1名を釈迦ヶ岳に案内

◇実施日 11月4日(月・祝)

晴

◇参加者 沖崎吉信、阪口雄二、大江徳子、上村洋司・和美、梶野照

雄、志岐敬、山本直子、高橋桂太、村吉光夫、今中三恵子

釈迦ヶ岳・深仙宿・湯川一郎、鳥羽真司、吉田雄太郎 14名

### 【古田の森付近の笹刈】

10月13日の釈迦ヶ岳祝賀登山の際、古田の森付近の笹が茂って登山道が見えない状態になっていた。帰宅後に会員から「あの笹を何とかしよう」との声があり、急遽行事予定に組み入れた。



車が多い登山口

大日岳鎖撤去のお知らせ

ハシゴ延長部の補強

大阪、奈良の6名と新宮の5名の皆さんから参加申し込みがあった。

当日の朝6時半、沖崎、上村の2車で新宮を出発。午前8時半過ぎに登山口に着く。相変わらず駐車場は満車だったが、奥の方に駐車することができた。村吉さんは本日下山後、持経宿へ向かって一泊するのと、平治宿トイレ改修の資材(屋根トタン)を引き渡した。持経宿へは国道425号経由となるので、池郷林道に入るころには真っ暗になっているだろう。運転のプロとはいえ、いつも頭が下がる思いだ。

本日は村吉さんの刈払い機と児嶋さんから借用したヘッジトリマーと山彦の一台、合計3台の機械が稼働する。



古田の森付近の笹

笹刈の参加者

ピーク道の笹刈

高橋君は早く着いたようで、古田の森へ先行していた。梶野、志岐、山本の3名は少し遅くなることだったので、我々は午前9時頃に登山口を出発した。不動木屋谷登山道の分岐を過ぎたところから笹を刈った跡があった。午前10時半に古田の森に着き、全員に作業の役割を伝える。午前中は山頂方向へ刈進み、古田の森まで戻って昼食後は下山しながら伸びた部分を刈っていく事とした。

刈る距離は決めず、何時まで作業するかを基本としてスタート、梶野、志岐、山本の3名もほどなく到着し作業に加わる。機械の2人、ハサミ、カマの組、そして熊手で刈った笹を除去する組に分かれて刈進む。私は最後尾で刈残しの処理を行い、午前11時20分に古田の森に戻って昼食とした。

ちようど12時頃に登山口方面の笹刈を開始、沖崎、志岐と女性3名（大江、上村、山本）が刈り取った笹の除去をしながら進んだ。途中で湯川、鳥羽、吉田の3名が下山してきた。山頂は雲の中で展望はなかったが、釈迦如来像や深仙宿の雰囲気などは感動ものでした。と大変喜んでいただいたようだ。



下山しながらも刈る

登山口に帰着

ロープを鎖に交換

先行する笹刈班は丁寧には刈り取っているようで、後続の除去班は登山道の笹を取り除くのに一苦労。湯川君にお願いして、笹刈班にもう少し少なくとも刈ってくれ、と伝えたほどだった。

2時間近く費やして不動木屋谷登山道の分岐に着く。ここで休んで

いると一人の若者が女性を一人見なかったか？と尋ねてきた。

富田林から二人でやってきたが山頂で喧嘩し、女性が一人で下山したそう。男性は登山口まで降りて女性を探したが見つからない。再び登ってきて会う人ごとに聞いているという。途中は深仙宿に下る道しかない、深仙宿に行つたのではないか。今から深仙宿迄行くと帰りは暗くなるので、ライトの数を数えていると件の女性が現れた。深仙宿を通過した登山者に拾われ、下山してきたらしい。深仙宿迄探しに行く必要が無くなってヤレヤレだが、一言苦言を申し上げた。女性を無事に連れ帰った登山者にお礼を伝えて一件落着分岐で本日の作業を終え、登山口に戻った。皆さんお疲れさまでした。ありがとうございます。

深仙宿から釈迦ヶ岳山頂までや蘇莫岳、天狗山付近の奥駈道に笹が茂って足元が見えなくなっているところが多くある。刈り取ってスッキリしたいので、その節もどうぞよろしく。 (記・沖崎)

#### 行動タイム

新宮 06:30→08:36 太尾登山口 08:55→10:30 古田の森 12:15  
↓14:56 太尾登山口

#### 【釈迦ヶ岳・深仙宿】

釈迦ヶ岳山頂の釈迦如来像建立100年記念登山が10月13日に当ぐる。ぶの行事として行われた。当日、世界遺産20周年記念行事（公務）と重なり参加できなかった鳥羽さんに、ぜひ釈迦ヶ岳登頂をしてもらいたく、お声がけし、若手の吉田さんを加え、三人で釈迦ヶ岳へ登る計画をたてた。

新宮を5時30分に出発、太尾登山口には7時50分着、準備を

していると今中さんから声をかけられ、話をしているとところへ村吉さんが到着された。お二人は同日計画された古田の森付近の笹刈作業に来られており、村吉さんは10分程先の標識を取り替えるとのことで、標識とインパクトドライバーを預かって出発した。

古田の森に着くと、高橋さんが写真を撮っておられ、聞くところ積迦ヶ岳山頂で20分程いたが、ガスがかかったまままで撮影を諦め、笹刈組を待っているということだった。

大峰南部の秀峰、積迦ヶ岳の大展望を見てもらいたくて計画したが、結局のところガスがかかったまままで展望はゼロ、一瞬だけ青空が見えただけで、深仙宿に向かうこととした。

分岐地点からの奥駈道は、笹で足元が見えない箇所が多々あり、気をつけて下った。都津門では二人は岩穴を食い入るように眺め、深仙宿に降り立った。香水水の水量は少なくポタポタと落ちる程度であった。



都津門



朽ちかけた橋は撤去され捲道が整備されていた

深仙宿で室内のLED点灯を確認、外に出てお昼ご飯を食べ、正

午に千丈平に向けて出発した。千丈平への道は笹が刈られており、朽ちかけた橋は撤去され巻道は杭を打ち階段状に整備されていた。古田の森に13時過ぎに到着、笹が刈られた跡がある。しばらくして笹刈後の処理組に追いつくと、先行組に後処理が追いつかないと伝えてほしいと頼まれた。村吉さんが率いる先行組にその旨を伝え、私達は笹刈には手を出さず、太尾登山口に向かって下山した。

(記：湯川)

#### 行動タイム

新宮 05:30↓07:50 太尾登山口 08:03↓09:32 古田の森 09:35  
↓10:23 積迦ヶ岳 10:34↓11:17 深仙ノ宿 12:01↓13:09 古田  
の森 13:09↓14:24 太尾登山口 14:30↓17:00 新宮